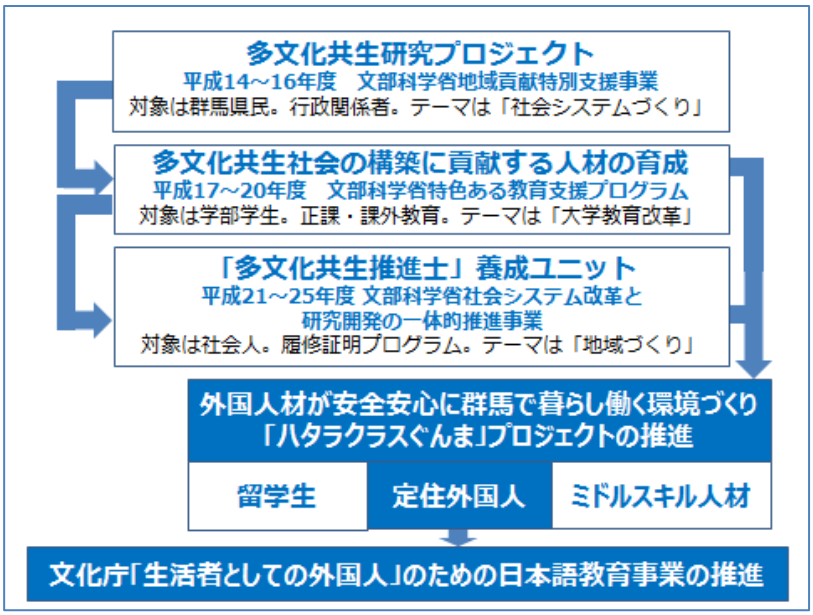
事例報告
1

平成 25 年度「生活者としての外国人」に対する日本語教育事業
地域日本語教育実践プログラム（A）

団体名：国立大学法人　群馬大学（多文化共生・教育研究プロジェクト推進室）

【団体紹介】

群馬県には，平成 2 年の入管法改正の施行以降，県内の増加した外国人住民との共生問題と，急速な人口減少による人材不足という地域課題があります。群馬大学ではこの地域課題を解決するための人材の育成を，平成 14 年度から継続して，群馬県及び市町村，関係機関との連携を図りながら推進してきました。



群馬県に縁あって学びに来た「留学生」，働き生活している「定住外国人」，これからの人材不足の社会を支える「ミドルスキル人材」が，安全・安心に群馬県で働き・暮らし，地域交流を深めながら豊かな人生を送れるようにする環境づくりを進めていくことが本推進室のねらいです。そのなかで特に大学の特性を活かして推進しているのが，多文化共生社会の構築に貢献する**人材の育成**です。群馬大学「多文化共生教育・研究プロジェクト推進室」は，平成 14 年度に全学規模で立ち上げられ，以降，一連の人材育成とその人材とネットワークを活用した地域実践の企画・運営を担当しています。

多文化共生社会の構築に貢献する人材の育成については，学部学生から社会人まで一貫した教育カリキュラムを編成し，分野も，教育，保健・医療，社会福祉，安全安心，防災，行政，経営，市民活動など，多様な分野に広がります。それぞれの領域の最先端でご活躍の地域のみなさまとともに学び合い，協働して地域実践を展開し，社会システムづくりを目指しています。

【連絡先】
〒371-8510　群馬県前橋市荒牧町四丁目２番地　　TEL/FAX　027-220-7382
pcdc@ml..gunma-u.ac.jp
【ウェブサイト】群馬大学・群馬県「多文化共生推進士」養成ユニット
http://jst-tabunka.edu.gunma-u.ac.jp

平成 25 年度「生活者としての外国人」に対する日本語教育事業
地域日本語教育実践プログラム（A）

事業実施概要

事業名称	日本に定住を希望する外国人住民が高齢期に向けて備える「ライフプラン」に必要な日本語教育実践プログラム
地域の課題	群馬県「定住外国人実態調査」（平成 22 年度）によると，約 70%の外国人住民が「今後も日本に住み続けたい」と考え，その 80%が「今と同じ地域に住み続けたい」と考えている。しかし，これらの外国人住民には，日本での暮らしに必要な情報が十分には届いておらず，「医療（病院，予防接種等）」については 64.4%，「福祉（健康保険，年金等）」については 61.3%，「労働（求人，就職，労働条件）」については 56.2%の外国人住民が情報入手に困難を感じ，同住民の 79.7%が日本語教育を受けることを希望している。本事業で対象地域とする「伊勢崎市」には，10,801 人にのぼる県内最大の外国人登録者が在住し（群馬県調べ。平成 23 年１月現在），日本の暮らしに必要な高齢期に備える「ライフ・プラン」を「日本語で学ぶ」要請が最も高い地域となっている。
事業の目的	生活者としての外国人が，日本に定住し高齢期を迎える前に必要となる日本での「ライフプラン」を，①マネープラン，②ケアプラン，③地域交流プランという３つのテーマから考え，自らの「ライフプラン」を構想し実践できる力を養成する。具体的には，①マネープラン（暮らしを守る「保険」，老後に備える「年金」，私たちの身近な「税金」，「金融機関」の利用の仕方），②ケアプラン（「生活習慣」を見直す，「介護保険」を知る・利用する），③地域交流プラン（「弓道」を体験し，弓道の「ことば」と「動作」の学びを契機に，地元の弓道愛好団体と交流する。）を日本語で学び・実践する力を学習者に対して養成することで地域の課題を解決する。
事業の概要	**日本語教室の設置・運営**
	名称：あなたの「ライフプラン」をつくり・実践するための日本語教室 目的：①学習者が受講内容をもとに自分自身の「ライフプラン」を日本語で説明できるようになる。②「ライフプラン」を実行に移すときに必要となる，日本語で書かれた各種申請書類の内容を理解し，窓口担当者とやりとりができるようになる。 対象：伊勢崎市への定住を検討している／決めた外国人住民 人数：２７人（主な出身・国籍：ブラジル６，ペルー１０，フィリピン５，ベトナム６） 時間：60　時間　（全　20 回） 【マネープラン】1 回２時間　×９回　＝18 時間 【ケアプラン】　1 回２時間　×９回　＝18 時間 【地域交流プラン】1 回６時間　×　２回　＋1 回４時間×３回＝ 24 時間 内容：【初回】高齢期を迎えるために，ライフプランの必要性を知る。 各自のライフイベント表を作成する。 【マネープラン】積立預金口座を作る・給与明細表の内容がわかる・健康保険，公的年金，成年後見制度の仕組みを知る等 【ケアプラン】認知症，脳卒中，生活習慣病の症状の理解。救急車の要請，地域包括支援センターでの相談，要介護認定申請の仕方を知る等。 【地域交流プラン】弓道の所作の学習を通じて，身体部位（名称）や礼儀作法を学び習得する。日本の伝統文化である茶道，書道を体験する。

平成 25 年度「生活者としての外国人」に対する日本語教育事業
地域日本語教育実践プログラム（A）

	日本語教育を行う人材の養成・研修の実施
	名称：「あなたの『ライフプラン』をつくり・実践するための日本語教室」開催のための日本語指導者養成講座 目的：「あなたの『ライフプラン』をつくり・実践するための日本語教室」を実施するのに必要な教育内容と方法を理解し，学習者の日本語能力に応じた指導ができる人材の養成・研修を行う。 対象：地域の日本語教育に継続的に活動を続ける意欲のある人材 時間：５回×６時間（全５回） 人数：１７人（出身・国籍：日本 14 人，ブラジル１人，ペルー２人） 内容：・モデル教材（『バスに乗ってみる』）の内容解説と体験 ・ 外国人にわかりやすい「やさしい日本語」の使い方について ・ マネー／ケア／地域交流プランについての基礎知識について ・ グループワークによる教材の作成と検討（「行動，体験中心の活動」教材） ・ 実際にテキストを作成することで，活動のポイントについて ・ 対話型の日本語活動のための市販教材について ・ 各プランを「学ぶ日本語教室のための「行動，体験中心の活動」教材の進め方を知り，模擬授業をする
	日本語教育のための学習教材の作成
	名称：「あなたの『ライフプラン』をつくり・実践するための日本語教室」のための学習教材の作成目的： 対象：日本に定住を希望あるいは決定した者で高齢期に向けて備える「ライフプラン」に高い関心をもつ外国人住民。特に，情報入手に困難を感じ，日本語教育を受けることを希望する者。 構成：「『生活者としての外国人』」に対する日本語教育における日本語能力評価について」に基づき，学習ポートフォリオを作成し，学習者ひとりひとりの日本語学習の軌跡と能力が，学習者にとっても目で見てわかるような副教材も作成する。 「Ⅰ 健康・安全に暮らす」(03) 健康に気を付ける，「Ⅲ 消費活動を行う」(06)お金を管理する，「Ⅶ 人とかかかわる」(31)人と付き合う，「Ⅷ 社会の一員となる」15 地域・社会のルール・マナーを守る，16 地域社会に参加する，「Ⅹ 情報を収集・発信する」
成果と課題	自分が年を取るということはどういうことなのか，どのような状態になるのか，これまであまり考える機会のなかった「高齢期」に関心を持ち，安全安心に計画性を持って備える必要があるという意識が持てるようになった，という，受講生の感想が多数寄せられた。マネーやケアなどの専門用語や制度については，学習者にとっては理解が難しいものであり，体験型学習を充実させることでより，リアリティを持って学習できる教材の工夫が費用であった。また，これまでにない概念については，母国のものを参照しながら理解をしようとする傾向にあったので，「高齢期」に関わる学習者の文化的・社会的背景を理解するための情報交換や意見交換の時間を十分に持つ必要があることが判明した。言語・文化の相互尊重を図りながら，日本で迎える「高齢期」への備える日本語教育の実現を次の課題とした。

定住外国人が安心して高齢期を迎えるために…

本事業の企画・運営にあたっては，群馬大学「多文化共生教育・研究プロジェクト推進室」が担当する，群馬大学・群馬県「多文化共生推進士」養成ユニットの履修生からの応援がありました。これら履修生は，社会福祉士・介護福祉士・ケアマネージャー・ファイナンシャルプランナー１級・弓道５段など多様な資格をもっています。これら多様な地域人材の参画により，体験型カリキュラムはより専門的かつ実践的で，受講生にとって親しみやすいものになりました。

高齢期に備える「マネー」「ケア」「地域交流」の基礎知識とコツを体験的に学習する日本語教室の実践のため、ライフプランの専門家、日本語教室コーディネーターとしてのキャリアを持つ「多文化共生推進士」養成ユニット履修生が、日本語教育が専門である群馬大学国際教育・研究センター教員と連携。日本語教室の内容の検討、学習教材の作成、日本語指導ボランティアの養成に取り組みました。

日本語教室は、将来どのようなことが自分自身や家族に起こり、どんな準備が必要かを参加者に実感してもらえる内容。日本語教育専門家やボランティアとの協働、履修生各自のキャリアを活かした専門家としてのフォローを行いました。

平成 25 年度「生活者としての外国人」に対する日本語教育事業
地域日本語教育実践プログラム（A）

マネープラン

ファイナンシャル・プランナー（CFP®認定者）のキャリアを活かし、身近な給与明細を用いて税金の使われ方、医療費の負担割合などをわかりやすい日本語で理解できるテキストづくりに携わりました。イラストや動画も積極的に活用し、座学・グループディスカッションを通じて、実生活で役立つ知識として身に付けてもらう内容を教えました。

ケアプラン

社会福祉士、介護福祉士の専門知識・スキルを活かし、健康や介護について教えました。「高齢になる」とはどういうことか、要介護・要支援状態になったときの対応策など現実的な「備え」を重視し、いざという場合の行政の窓口をしっかり把握するとともに、緊急連絡の仕方などもレクチャー。受講生には高齢者疑似体験教材を用いて、加齢による身体的な変化を体験してもらいました。

地域交流プラン

弓道や書道・茶道などの体験を通じて日本の伝統文化に触れ、礼儀作法の習得や地域交流に役立てる取り組み。地域の人の輪の中に加わり、コミュニケーションを深めるきっかけづくりの参考となる手法を伝えました。

日本語教室 参加者コメント

瀬戸アンパロさん（伊勢崎市在住／ペルー出身）

医療や介護の制度・サービスについて、わからないまま暮らしている外国人は多く、みんな「病気になったらどうしよう」と不安に思っています。

私は日本に住んで約20年。数年前に脳梗塞で倒れてしまいました。症状が軽かったことと、リハビリのおかげで、無事に元と同じような生活に戻ることができましたが、はじめは治療の手続きや保険の申請の仕方もわからず大変でした。正直、大きなショックを受けました。

ですから専門家の人から日本で暮らす「備え」を学ぶことができる教室はすごくありがたかったですね。周りの人が困ったときにも、ここで学んだことを私が教えて、手助けしてあげることができると思います。すごく良いチャンスに恵まれたと感謝しています。

群馬大学・群馬県　平成 21-25 年度「多文化共生推進士」養成ユニット　事業報告パンフレット（24-25 頁）より掲載。